

会議概要（速報）

件名	令和3年度新潟市花育推進委員会（第2回）	
日時	令和4年3月17日（木）午後2時～午後4時	
場所	市役所ふるまち庁舎4階 401会議室	
出席者	委員	青山委員、阿部委員、北澤委員、坂井委員、玉木委員、中野節子委員、中野優委員、村井委員
	事務局	【食と花の推進課】坂井課長、岸本課長補佐、佐藤係長、加藤主査、渡邊
概要	<p>1 開会あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>（1）令和3年度 花育推進事業の取り組みについて【資料1-1～3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1-1～3に基づき、事務局が花育推進事業の取り組みについて説明を行った。 【主なご意見・質問等】 ・質問や意見なし <p>（2）第3次新潟市花育推進計画の概要（案）について【資料2-1～5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2-1～5に基づき、事務局が第3次花育推進計画の策定の趣旨や施策の方向性について説明を行った。 【主なご意見・質問等】 ・第3次計画の柱の一つに「人材育成」があるが、どのような育成があると良いか。消費につなげるところまでいくためには、既存の花育マスターだけでなく、新しく人材を発掘することが必要ではないか。 <ul style="list-style-type: none"> →第3次計画では、生産現場を支えていくために、新しく経済面の視点を取り入れ、教育面との両輪で推進を考えている。これまでの花育マスターの活動は教育面に軸足を置いていたが、計画策定後に必要な施策を考えていく。 ・人材育成として、生花店の若い店員向けに勉強会を設けるなどして、店員が花の効能をお客様に教えられるようになるといい。 <ul style="list-style-type: none"> →新しい視点として施策に取り入れるよう検討していく。 ・総合学習の時間もあるが、小学校では花と関わる授業時間が取れておらず、中学校ではほぼない。花は植えるのは簡単だが維持管理が難しく、地域とのコミュニケーションが必要である。子どもたちが花を想うことにより購買欲にもつながるので、教育委員会と連携して花に関するプログラムを提案してはどうか。 <ul style="list-style-type: none"> →持続可能な農業というSDGsの視点での食に関するプログラムを教育委員会と連携して考えている。花も同じく、消費者教育という切り口で検討していく。 ・SDGsと花産業との関わりについて考えているが、市民のロスフラワーに対する意識が高く、異業種からも色々な使い方の提案がある。SDGsというと範囲が広いターゲットを絞り、ロスフラワーについてどうしたらよいか提案してもらうのはどうか。花と遊ぶことで喜ぶのは低学年までであり、未来や福祉や環境などのエッセンスを入れることにより高学年も興味を持つ魅力が生まれる。そのために花育マスタ 	

一のレベルアップがされるといい。

→切れ目のない教育が大切であると認識しており、視点として取り入れていく。

- ・花きの産出額が5年で半減しているのは事実であり、売れないだけでなく生産者が辞めているため絶対数が不足している。チューリップ球根の国産が足りなかったり、欲しい花が買えなくなったりしているので、農家を守る施策が必要だ。消費だけ拡大すると物が足りずに価格破壊が起こる恐れもある。消費だけでなく、両輪として偏らずに生産が安定するように新潟の農家を守っていくことが重要だ。

- ・資料2-4(5)3「花の産地『新潟市』の認知度向上による誇りと愛着の形成」の視点が重要であるが、市内小学校の授業でこのようなことは教えられているか。

→「アグリ・スタディ・プログラム」の一部に花のプログラムもあるが、あまり利用されていない。小学校3年生の学習指導要領には、その土地の特徴に合った産業についての学習が位置付けられており、花き産業の盛んな秋葉区では学習していると思う。

- ・花きの認知度向上のために、先生方が授業で活用できる新潟市全体のPR動画を作成すると良いのではないか。オンデマンドで見られるシステムなどが時代に合っていると感じる。

→昨年度、販売促進のためチューリップの生産から出荷までを紹介する5分程度の動画を作成した。学校での動画の活用について教育委員会と協議していく。

- ・第3次計画では教育面と経済面の両輪で花育を推進していくとあるが、新潟市が花の産地であることを知っている人は少ないのではないか。米作りのように生産現場に出向いての体験活動として例えばアグリパークで花の畑に入って自分で切り取りブーケを作るなど自ら関わる経験を積むことで、花屋で花を見たときに生産にまで意識が向くと思う。生産の場と子どもたちをつなぐことが大事なのではないか。

→来年度、当課主催で花の生産地を子どもと一緒に巡るバスツアーの開催を年2回程予定している。市内の花の生産地にスポットを当て、生産や流通の現場を知ってもらう内容としており、このような機会を増やしていきたい。

- ・コロナ禍で花が全く売れない時期があり、東京の市場では2021年には売り上げが回復したが、地方の卸売市場の回復は90%までである。市内では生産者が高齢も理由に生産をやめ、100あったものが10以下になっており、花の産地としての衰退が危惧される。全国の市場で危機感を持ち勉強会を開いており、新潟のチューリップの売り上げは減少しているが、SDGsの観点からそのまま暖房に油を使用した生産を続け、消費者が納得して購入するのかについても議論している。

(3) 花育に関するアンケートの実施について【資料3-1~2】

- ・資料3-1~2に基づき、事務局が花育に関するアンケートの実施案について説明を行った。

【主なご意見・質問等】

- ・質問や意見なし

	<p>(4) 令和3年度 花育俳句優秀句選考について【資料4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料4に基づき、事務局が花育俳句優秀句選考について説明を行った。 <p>【主なご意見・質問等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの句にもその方の花への想いが表れていて難しかったが新潟の花をPRしている、情景が浮かぶ句を選考した。句を読むだけでも癒され、花育の効果も感じた。 ・小学生も良い句が多く、国語の授業も含めて継続して取り組んでほしい。 →令和元年度は18人だった小学生の応募が3回目を迎えた今年度は183人まで増えた。俳句を通して花育を知る取り組みとして、小学生の参加が増えるよう引き続きPRしていく。 <p>3 事例研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小須戸小学校地域教育コーディネーターの村井豊委員が、地域の放春花（ボケ）を生かした小須戸小学校の取組みについて事例発表を行った。 <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
傍 聴	0人
報 道	なし